

管外調査、研修、要請陳情、各種会議結果（報告）

舞鶴市議会議長 あて

令和3年8月26日

会派代表者氏名 谷川 眞司

このたび、調査、研修、要請陳情、各種会議をしましたので、下記のとおり報告します。

記

- 1 参加氏名 谷川 眞司（幹事長）、高橋 秀策（幹事）、伊藤 清美、尾関 善之、川口 孝文、肝付 隆治、山本治兵衛（議長）
- 2 調査・研修地 午前 佐賀県武雄市 武雄市図書館
午後 東京都千代田区立麴町中学校
※ いずれも、舞鶴市議会第1委員会室よりオンライン形式で視察
- 3 期 間 令和3年7月26日（月）
- 4 経 費 オンラインによる視察のため旅費の支出なし
- 5 結果の概要 別紙のとおり

視察先 武雄市図書館（オンライン形式）

出席者 舞鶴市議会創政クラブ議員団

谷川 眞司（幹事長）、高橋 秀策（幹事）、伊藤 清美、尾関 善之、
川口 孝文、肝付 隆治、山本治兵衛（議長）

対応者

- ・武雄市議会事務局 川久保事務局長
- ・武雄市図書館 溝上館長

【視察に係る背景】

- ・本市東西図書館新築から約30年経過し、経年劣化により、修繕工事にも多額の費用がかかるようになっており、施設の将来的な方向性を検討すべき時期に来ている。
- ・先の6月定例会において、令和4年度を目途に図書館基本計画を策定する方針であること。

1 武雄市図書館概要

平成25年4月に、代官山蔦屋書店を運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（以下CCC）と連携してリニューアルオープンし、年間100万人が訪れる図書館として運営されている。

特徴的なことは、指定管理はCCCが行い、蔦屋書店の併設により本の購入が可能、また、スターバックスがカフェを運営しており、BGMが流れる中コーヒーなどを飲みながら本を読むことができる施設となっている。



【コンセプト】

市民の生活をより豊かにする図書館

【目指す図書館像】

「便利」で「役に立つ」図書館

① いつでも利用できる図書館

- ・365日年中無休、開館時間9：00～21：00

② 居心地のいい図書館

- ・図書館、書店、カフェが融合（飲物を飲みながら、本や談話が楽しめる気軽な場所）
- ・ニーズに応える多様性（読書、勉強、談話、話せる学習室、無料Wi-Fi、コンセント付き座席など）

③ 体験できる図書館…「ライフスタイルの提案」提案型図書館

【9つの市民価値】

- ① 20万冊の知に出会える場所（開架10万冊から20万冊へ）
- ② 雑誌販売の導入
- ③ 映画・音楽の充実
- ④ 文具・地元土産品販売の導入
- ⑤ 電子端末を活用した検索サービス（i-Pad）
- ⑥ カフェ・ダイニングの導入（スターバックスの出店）
- ⑦ 代官山蔦屋書店」のノウハウを活用した品揃えやサービスの導入
- ⑧ Tカード、Tポイントの導入
- ⑨ 365日、朝9時～夜9時までの開館時間

指定管理者制度により、サービス拡充と行革を実現する。

平成25年までは、運営費は1.2億円であったが指定管理料1.1億円ですんでいる（開館日数1.1倍、開館時間1.5倍）

【学校、保育園等への支援・サービス】

- ・市内の小中学校に団体貸出
- ・図書館の団体見学（小学校・保育園等）
- ・学校図書室担当職員の研修会実施
- ・学校図書室づくりへの支援・協力
- ・図書館蔵書検索システムの利用
- ・保育園・幼稚園へ団体貸出（配本サービス）
- ・高齢者福祉施設、病院等への配本・講座サービス
- ・学校返却（図書館の本を学校で返却可能）
- ・特に児童・生徒向け講座・イベントの充実、提供

2 質疑

【指定管理者制度について】

Q C C Cを指定管理者に選定した経緯や、蔦屋書店（スターバックスを含む）を設置した経緯について教えてください。

A もっと多くの市民に利用してもらいたい、365日開館という具体的な目標について「行政でできなければ民間の力で」解決する。プロポーザル方式ではなしにC C C一本で進めた。樋渡市長（当時）の思いもあった。

【民間活力導入した図書館運営からの観点から現場の様子について】

Q 図書館と、併設のカフェや書店の間での利用者の往来はどの程度ありますか。

A 境目を気にしなくすべて図書館として利用。

Q 併設のカフェで購入されたものを持ち込み、自由に書籍を閲覧することができるのはとても魅力的なことだと思います。一方で、そのことによる書籍の汚損等のトラブルはありませんか。また、どのように対策をしておられますか。

A 当初は心配したが、図書館の本は表層ラップしており濡れることはない。

【さまざまな層の利用者に課題解決を支援するための取組について】

Q 2017（H29）年に開館したこども図書館について、概要や、設計・運営上の工夫についてお聞かせください。

A 本館を2002年に改修した際と同じ事業者随意契約でお願いした。

Q 子ども図書館により、子ども及びその保護者である若い世代の利用者数に変化はありましたか。

A 以前はお母さんと来ていたが増えている、父母で来館されている。

Q 高齢者や、身体が不自由な方などに対する配慮や工夫についてお聞かせください。

- A
- ・入口近くに座席を増やしている。
 - ・目の不自由な方には音訳ボランティアの方にお世話になっている。
 - ・身障者の方々に来ていただいて指摘を受けている。

Q 日中に仕事をしておられる方など、図書館の開館時間内での訪問が難しい層の市民について、利用を増やすための取組や工夫をされていることがありましたら教えてください。

A 午後9：00まで開館している。午後7：00以降の利用が増えている。
コロナ禍対策として登録してもらって、訪問利用サービスを行っている。

Q 図書館で企画されている多くのイベントについて、実績を教えてください。

A

	講座、イベント	参加者
令和元年度	1,578回	54,221人
令和2年度	1,066回	28,045人

Q 利用者を流入させる効果はありますか。

A 魅力的なイベントを気化することで効果を感じている。

Q 一定の予算内で、コストを抑えて多くのイベントを行うためのノウハウを押ししてください。

- A
- ・手作りのイベント（地元の方の出番をつくる）
 - ・CCCが運営している図書館が全国で10箇所あり、そこで行われているイベントを回してもらっている。

【インターネットやデータベース等の情報を集積した質の高い情報環境について】

Q GIGAスクール構想により、多くの小中学生がタブレット端末を持つようになってきていますが、小中学校と連携したICTを活かした取り組みは行っておられますか。

A 武雄市は、全国に先駆けて平成27年に、小学校1年生から中学校3年生まで4,028名のタブレットを導入している。プログラミング等の講座を行っている。

Q 電子書籍導入についてどのような取り組みをされていますか。

A 現在は導入していないが、平成23年には文科省の補助事業で行っていたが、一自治体で取り組むのは難しく、6年ぐらいでやめた。現在は、県内図書館協議会でできないかと検討している。

【その他】

Q 昨年来から続く新型コロナウイルス感染症対策として取り組んでおられることを教えてください。

A 無料配布やリモートで講座を開催している。

Q 返却ポストでのトラブルや汚損等はありませんか。

A 駅や市役所など市内10箇所で、毎日回収をしている。特にトラブルはなし。

Q 市民や学生の図書離れについてどのように考えておられますか。

A 現在はほとんどの方がスマホで情報をとっている、電話や新聞をとらない人が増えている。図書館に来てもらう、親しんでもらうことが一番なので、気軽に図書館に足を運んでもらって少しでも本を読んでもらいたい。

3 所感

- ・ 従前の落ち着いた読書スペースもよいが、BGMが流れる中コーヒーや紅茶を飲みながら本に親しむのもよいのではと感じた。
- ・ これまで図書館をそれほど利用していなかった市民が多く訪れ、交流の場となっている、また、カフェの併設、図書や雑誌その他の販売など、無料の図書館サービスと有料のサービスとを併存させ、従前にはない利便性を提供している。
- ・ 図書館にいかんが沢山の市民に来ていただいて利用してもらえかが大切ではないかと感じた。

視察先 千代田区立麴町中学校（オンライン形式）

出席者 舞鶴市議会創政クラブ議員団

谷川 眞司（幹事長）、高橋 秀策（幹事）、伊藤 清美、尾関 善之、
川口 孝文、肝付 隆治、山本治兵衛（議長）

対応者 長田校長(理科教授) 令和2年4月に赴任(前工藤校長)

調査事項

- (1) 授業や自宅学習でのタブレット端末の利活用について
- (2) 教員の指導力向上の取り組みについて
- (3) 教員の働き方改革について

1 麴町中学校概要

学校経営方針、教育活動、働き方改革、GIGAスクールの4点について説明を受ける。

(1) 学校経営方針

まずはじめに、3つの言葉

- ①近い将来10人中9人は違う仕事をしている。
- ② 20年以内に47%が違う仕事をしている。
- ③今の子供たちの65%は現在存在していない職業に就いている。

これからの世の中は、ロボット、AIの進展で産業のあり方も大きく変化し、そのための対応力が必要となってきた。

産業別就業者数の推移を見ても第一次産業、第二次産業、第三次産業を見て第一次産業は減少傾向であり、第三次産業は増加傾向にある。また第三次産業の中身も大きく変化してきている。

現在、自分の国だけでは解決のできないグローバルな時代となってきた。通信技術など多くの情報を吟味し正しく判断する力が重要となっている。

麴町中学校では、学校は社会人になるための準備期間として、誰かと協働して活動すれば、意見の対立が起こることなど、私たち大人は何度も経験している。麴町中学校では、他者との関わり、社会とのつながりを重視し、社会で必要になる能力を身に



付けることを目指す生徒像として示している。いずれも時間をかけて経験を積み重ねながらレベルアップさせていく能力である。

人材育成の場としての学校OECDの示すコンピテンシーと麴町中学校の目指す生徒像の關係に注目をしていただきたい。国際人として考え行動できる能力を身につけることを目指している。

(2) 教育活動

① 教育目標

人間尊重と相互信頼を基盤として、平和で民主的な国家および社会の形成者を育成することを目指し、次の目標を掲げる。

自律 自ら考え、判断し、行動する

尊重 違いを理解し、他者を尊重する

創造 豊かな発想で、新たな価値を生み出す

② 目指す生徒像

質の高い魅力的な教育活動の創造から、「国際人として考え行動できる生徒」を目指す

自分で責任を持ち、新たな気づき、新たな発想、新たな価値を見いだす。

社会で再現できる学びの習得

集団を意識して行動できる力の育成

多様性を受け止め、他を尊重する資質の向上

社会における自己の生き方を考える

③ 目指す教師像 人づくりは人づくりから

生徒が経験を通して身に付けた能力を価値づけることのできる教師

質の高い効率的な組織運営の実現

個々のスキルアップ

組織的な学校運営の実現

サービス規律の徹底とマナーの向上

以上の観点から、自立して生きる力を育むとして1年生、2年生、3年生、それぞれ社会に開かれた問題解決型カリキュラムを設定して学ぶ。

①として自立を促進する個の学び。

②として自立を促進する協働の学びなど事例を用いて詳しく説明を受ける。

(3) 働き方改革

① ライフワークバランスの推進

教職員が生活と仕事の両面で豊かさを実感できる職場環境は、質の高い教育を提供していくための基盤である。ライフワークバランスの推進により、教職員が生活と仕事の調和を実現していく職場環境を構築する事は、ゆとりあほる対応や自己啓発の推進の視点からも重要である。

② 具体的な取り組み

ア タイムマネジメントの推進

限られた時間の中で、自身の行動をどのように変えていくかという視点、

イ 業務の平準化効率化共有化という視点からの改善

ウ 各種会議の効率的な運営、会議の目標を意識した進行管理

- ・決断すること
- ・洗い出しすることリストを作ること
- ・情報共有すること
- ・合意すること
- ・段取りや役割分担など、ネクストステップを決めること

エ ペーパーレス化の推進

(4) GIGAスクールについて

推進組織を作る(デジタルサポート)

1人1台端末で基本持ち帰りとして、学校に置く事はない。万一のことを考え保険にも入っている。また貸与に関して取り扱い要綱を定めた同意書をとっている。使用機器はマイクロソフトのサービス。導入ソフト、アプリの有効活用が課題となっている。

現在使用しているソフトはコラボポートでデータの共有ができ先生、生徒とも即座に入力可能なソフトを使っている。今後このコラボポートを使った授業の展開を考えていく。リアテンドント採点ソフトでこれも即座に採点ができる。この点は働き方改革にも重宝できるソフトとなっている。

2 質疑

Q GIGAスクールに関しての教材費の負担について。

A 教材費の負担はない。むしろ国語、算数などがドリルを買い求めていた場合には、むしろ入らなくなるので負担は軽減される。GIGAスクールに必要な備品等については全て公費で賄うこととなっている。

Q ソフトなど不用意に使用してシステム等が壊れた場合にはどのようなになるのか。

A 使用に関しては要項に定めてあり、あくまでも学習に使用することが前提となっている。注意して元へ戻す。

Q 統一的な先生方への研修等についてどのようにされておりますか。苦手な先生もおりますがどのようにされておりますか。

A GIGAスクールが始まりましたので研修会を行っている。苦手な教員については、授業の中で必要な時に使えるよう、またメリットを伝えるようにしている。

Q ICT等を専門に扱っておられる先生の研修等についてはありますか。

A デジタルサポート班を組織して各学年の先生方に対応している。研修等も行っている。

3 所感

麴町中学校への視察については今回で2回目となる。1回目は2019（平成31）年2月7日。当時麴町中学校は工藤校長の下で学校の当たり前をやめたことで教育界で大変注目される。例えば宿題を廃止する、定期テストを廃止する、固定担任制を廃止するなど今までの当たり前を止める、こうした学校教育に対する工藤校長の考え方、また現場ではどのような授業の進め方をされているのかを視察する。

当時麴町中学校ではすでにタブレットを活用した授業も始めておられたことから今回の視察となる。

現在の長田校長から学校の経営方針、教育活動、働き方改革、GIGAスクールの4点をオンラインであったが各調査項目に対して、事例等又、質問に対しても回答を含め詳しく説明を受ける中で、麴町中学校では、学校は社会人になるための準備期間として、人材育成の教育実践の場としての取組、国際人として考え行動できる能力を身につけることを目指すなど、麴町中学校教育の目的をハッキリと示されており、それらから多くの学びが出来た。またそうした独自の教育実践を感じたことが今回の有意義な視察になったと思う。

以上、報告いたします。